

めざす子ども像

心身ともにたくましく、自分を大切にし、 他者を思いやる子ども

取組目標

安全な方法を提案しながら、地域のあらゆるところからの日頃の支援や行事を通して繋がり絆を深める。自らが発言や行動のできる練習体験を繰り返すことで、自信を高め、自他を認めて大切に思う心を養う。

【今年度の取組紹介】

感染予防に気をつけながらできる活動の在り方を見いだして実行することができました。

図書活動推進事業では、図書のディスプレイ台作りやカバー付けなどの図書環境整備、子どもたちへの絵本読み聞かせを動画に撮りました。選べるほど沢山の動画が撮ることができ休み時間に活用されています。

また図書ボランティア意見交換会をおこないました。子どもプロジェクト事業では、協議会で保管している羊の毛を使ったクラフト体験「フェルトソープをつくろう！」を企画して、そのためのボランティア講習会をおこないました。



【今年度のまとめ】

今年度は子どもたちと一緒に活動する事は出来ませんでした。

意見交換会でボランティアから「対面での読み聞かせをしたい」など思いを聴く事ができ、「したい」から実施するための工夫を見いだすことができました。また子どもプロジェクトではボランティア講習会をおこなったことで沢山の希望人数の子どもたちへの体験実施の可能性が広がりました。

子どもたちのために学校と地域それぞれが「したい」を「できる」ようにと願い企画を進めましたが、感染拡大のタイミングとなり中止となってしまいました。

【来年度に向けて】

引き続き感染予防をしながら活動の仕方を考え工夫して実施していきたいと思います。中止となっても後日実施できるように迅速に企画を進めていくようにしていきます。

めざす子ども像

心身ともにたくましく、自分を大切にし、

他者を思いやる子ども

取組目標

子どもたちと地域の方々とのかかわりの中で、子どもたちは人間関係の多様性を学び、地域の方々には学校や児童生徒に対する理解を深めていただく、相互に有益な関係を築くことができる取組を充実させる。

【今年度の取組紹介】

コロナ禍のため、計画していた事業の中で、特に地域の方と共に生徒が活動する内容については実施ができず、とても残念に感じています。

今年度は、本校創立10周年記念事業に関わって、特別に準備したプランターにマリゴールドの花植えを2学期の初めに企画し、直前まで準備や調整を図ってきましたが、かないませんでした。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により午後からの授業がオンラインでの授業になることで学校における活動ができなかったためです。3学期初めに企画した地域の方との環境整備活動も実施には至りませんでした。

このように地域の方々と生徒との協働による活動は実施できませんでしたが、校内では、昨年度作成のオレンジ色のエプロンを着用して活動くださったことで、地域の方を身近に感じることができました。児童生徒にボランティア活動をさらに身近に感じてもらえるようにオレンジの「かつどう中」の旗を掲げる工夫もしていただきました。共に活動ができなくても、こうした工夫が校内でのボランティア活動を児童生徒をはじめ教職員も身近に感じる環境となりました。「かつどう中」の旗を見つけてその部屋を覗いた児童がいたというエピソードをコーディネーター会議で紹介くださった時は、一同温かな雰囲気になりました。



活動中の旗



図書ボランティアの様子

【今年度のまとめ】

事業の実施にあたり、コロナ禍のために中止するのではなく、どのようにすればできるのかという視点を常に意識しながら事業計画を進めた1年であったように思います。地域の方と打合せを重ねる中で、コロナ禍において、地域としてめざす子ども像にいかにか迫れるかを共に考えられたと感じています。毎日の登下校の見守りをはじめ児童生徒の姿を日常的に地域の方が見てくださる中で、育成をめざす子ども像について熟議した会議もありました。地域の方の熱い思いと子どもに対する大きな期待を改めて感じる時間が共有できたと思います。

【来年度に向けて】

子どもの実態をみつめ、地域としてめざす子ども像を共有し、具体的にどのような手立てで事業を実施していくのかを明確にして取り組んでいくことに努めたいと思います。地域の方からは「子どもたちと共に活動する中で役に立ちたい」というありがたいお声をいただいています。来年度は協議会としてめざす子ども像を「心身ともにたくましく、自他を大切にし、自ら学び、主体的に行動する子ども」としました。大人の姿を見て子どもが育つような素晴らしい関係を地域の方と学校職員とで築いていきたいと考えます。

めざす子ども像

心身ともにたくましく、自分を大切にし、**他者を思いやる子ども**

取組目標

地域の方々とのかかわりの中で、子どもたちは人間関係の多様性を学び地域の方々には学校や児童生徒に対する理解を深めていただき、相互に有益な関係を築くことができる取組を充実させる。

【今年度の取組紹介】

新型コロナウイルスの影響により、子どもたちや、地域の皆さんの安全を第一に可能な限り実施できる活動を模索し実践しました。

図書の読み聞かせの活動では、対面式での実施が難しいという判断のもと、それでも絵本の魅力を伝えたいと実施可能な方法を模索し、動画を撮影し、それを子どもたちに視聴してもらう形をとりました。ボランティアの方々も安心して取り組めるということで、たくさんの動画を撮影していただき、週に2回

(火・金) 視聴の時間を作ることができました。図書ボランティアの活動でふれあいルームに来校されている際に、それを見つけた児童が「絵本のおばちゃんや。」と声をかけてくれたことが、とてもうれしかったと言っておられました。また、環境整備活動では、委員会活動の時間に地域のボランティアの方とともに、校舎沿いの学級園の整備を計画しておりましたが、コロナの影響で学校のみでの整備となりました。雑草を抜いて、土起こしを行ったので、来年度は地域の方と様々な花や作物を植えていければと考えています。



動画撮影の様子



動画視聴の様子

【今年度のまとめ】

環境整備支援、読書活動推進、学習補助等に、多くのボランティアの方が登録してくださっています。コロナ禍のため多くの制約があるなか、工夫をしながら子どもたちと地域の方が出会い、ふれあい、ともに活動することで、大人も子どももこの地域のなかで暮らしていることを意識することができました。実施できない事業が多々あり、ボランティアの方に来校いただけない期間も多かったですが、「めざす子ども像」を共有し、よりよい学びの構築のため時間や思いを共有できました。

【来年度に向けて】

今年度も多くの活動が制限されましたが、地域の方より「来年こそはもっと役に立ちたい」という温かいご意見を複数いただきました。様々な活動を効果的に実施するため、新しい生活様式に対応する事業の視点を持ち、めざす子ども像を「心身ともにたくましく、自他を大切にし、自ら学び、主体的に行動する子ども」としました。今後も、地域とともに実現できるよう連携をより密にして取り組んでいくことに力を注ぎます。そうすることで、大人も子どもも地域のなかでの有用感を感じられる取組が運営委員会の事業として展開できるように努めます。

めざす子ども像

心身ともにたくましく、自分を大切にし、 他者を思いやる子ども

取組目標

地域の教育力を生かした幼小中連携教育
—豊かな心を育み、たくましく生きる幼児の育成—

【今年度の取組紹介】

みんなであそぼう

地域の方々や保護者に協力していただき、キャリア教育の一環として昨年に引き続き「みんなであそぼう」を行いました。今年は“お祭り”をテーマにし、全ブースを通して、感覚（視覚・聴覚・嗅覚・触覚）を使った遊びを楽しみました。又、遊びの中でゴミの分別（可燃ごみ・プラスチック）も取り入れ、身近な環境について学ぶこともできました。



わくわく農園

地域の方に来ていただき一緒に畑を耕したり、種まきや苗植えをしたり、肥料をあげたりする菜園活動を通して、毎日の水やりや草引きなど継続した世話の大切さをすることができました。また、自分達で収穫したさつまいもで焼き芋をし、自然の恵みに感謝する子持ちも育つことができました。



【今年度のまとめ】

- ・地域の方々や保護者に協力していただき、コロナ禍の中でも様々な事業に取り組む中で、子どもたちは、たくさんの感動体験を味わうことができました。その中で、「楽しかったね。」「もっとやってみたいなあ。」と次につながる意欲が生まれてきました。
- ・様々な地域の行事が中止になる中で、お楽しみ会でのマリンバコンサートや、奈良西養護学校とのリモート交流など、人数制限やディスタンスを図る工夫をしながら、身近な人とのかかわりをしていくことにより、自分の住んでいる地域が大好きになり、その中でやさしさや思いやり、相手の気持ちに気付く心が育ってきました。

【来年度に向けて】

今年度（令和4年3月末）で閉園になりました。

次年度、公立の幼稚園としての保育・教育や地域とのつながり等、移管先の認定こども園に引き継いでいってほしいと思います。